

## 2023年10月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年3月17日

上場会社名 株式会社CAICA DIGITAL 上場取引所 東  
 コード番号 2315 URL <https://www.caica.jp>  
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)鈴木 伸  
 問合せ先責任者 (役職名)代表取締役副社長 (氏名)山口 健治 (TEL)03(5657)3000  
 四半期報告書提出予定日 2023年3月17日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年10月期第1四半期の連結業績（2022年11月1日～2023年1月31日）

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年10月期第1四半期	1,187	△32.2	△728	—	△741	—	△743	—
2022年10月期第1四半期	1,751	37.9	△30	—	△39	—	365	—

(注) 包括利益 2023年10月期第1四半期 △766百万円 ( —%) 2022年10月期第1四半期 459百万円 ( —%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年10月期第1四半期	△6 51	—
2022年10月期第1四半期	3 20	—

(注1) 2023年10月期第1四半期における潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(注2) 2022年10月期第1四半期における潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年10月期第1四半期	47,224	4,508	9.0
2022年10月期	59,032	5,152	8.3

(参考) 自己資本 2023年10月期第1四半期 4,268百万円 2022年10月期 4,887百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年10月期	—	0 00	—	0 00	0 00
2023年10月期	—	—	—	—	—
2023年10月期(予想)	—	0 00	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2023年10月期の期末配当予想額につきましては、現時点では未定であります。

### 3. 2023年10月期の連結業績予想（2022年11月1日～2023年10月31日）

当社グループは「ITサービス事業」と「金融サービス事業」を展開しております。この内「金融サービス事業」は、経済情勢や暗号資産市場等の環境の影響を受けることから、業績予想を行うことが困難であるため、連結業績予想を非開示とさせて頂いております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 — 社(社名) 、除外 — 社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2023年10月期1Q	115,869,094株	2022年10月期	114,269,094株
2023年10月期1Q	109,175株	2022年10月期	103,785株
2023年10月期1Q	114,296,467株	2022年10月期1Q	114,188,697株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

詳細につきましては、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間（2022年11月1日～2023年1月31日）におけるわが国経済は、急激な円安傾向が一服したものの、新型コロナウイルス感染症の影響、不安定な世界情勢による資源価格の高騰、急激な為替変動など依然として先行き不透明な状況が継続しております。

当社グループが事業を展開するITサービス業界及び金融サービス業界は、新型コロナウイルスの感染拡大を契機に、新たな生活様式が定着していく中で、さらなるデジタルトランスフォーメーションが進むことが予想されます。

このような状況の下、ITサービス事業においては、大手SIer等の既存顧客からの受注の拡大に加え、一次請け比率の向上に努めました。金融サービス事業においては、ブロックチェーンや暗号資産交換所「Zaif」運営の知見を活かし、今後拡大が見込まれるWeb3事業の成長を図っております。また、これまで業績面、キャッシュ・フロー面で大幅なマイナスの影響をもたらしていた金融サービス事業の在り方を見直し、カイカ証券株式会社（以下、「カイカ証券」）において業態転換を図るべく、現在、既存商品の早期終了を進めております。

当第1四半期連結累計期間における売上高は1,187百万円（前年同四半期比32.2%減）となりました。株式会社CAICAテクノロジーズ（以下、「CAICAテクノロジーズ」といいます。）におけるシステム開発が堅調であった一方、株式会社カイカエクステンジ（以下、「カイカエクステンジ」といいます。）、株式会社カイカキャピタル（以下、「カイカキャピタル」といいます。）における、暗号資産価格の下落に伴う暗号資産売買損益の悪化や、カイカ証券におけるサービスの終了により、売上高は減少いたしました。

利益面につきましては、グループ全体で販売費及び一般管理費の削減に努めたものの、売上高の減少を補いきれませんでした。

この結果、営業損失は728百万円（前年同四半期は営業損失30百万円）、経常損失は741百万円（前年同四半期は経常損失39百万円）となりました。また、投資有価証券評価損23百万円を特別損失に計上したことから、親会社株主に帰属する四半期純損失は743百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益365百万円）となりました。

セグメントごとの業績は以下のとおりであります。

#### 1) ITサービス事業

システム開発を担うCAICAテクノロジーズの売上高は前年同四半期を上回っておりますが、利益面では主にシステム開発にかかる原価率の上昇により前年同四半期を下回って進捗しております。

金融機関向けのシステム開発分野は、一次請けである保険会社向け案件の売上高が拡大するとともに、銀行向け案件において、一次ベンダからのメガバンク案件を中心に引き合い、受注がともに拡大しております。

非金融向けシステム開発分野は、顧客の事業拡大意欲が強く、IT投資も継続されており、新規案件の引き合いを常に確保できている状況にあります。

フィンテック関連のシステム開発分野は、決済系の案件を中心に安定的に受注を獲得しております。また、受注には至っていないものの、既存顧客以外の暗号資産交換所システムの引き合いを複数件獲得し、現在商談を進めております。

また、当第1四半期連結累計期間において、エンドユーザーのセキュリティリテラシーを向上させる「CAICA Security Training/標的型メール訓練サービス」や、Web3事業に参入する企業を支援する、セミオーダー型NFTマーケットプレイス開発サービスの販売を開始いたしました。CAICAテクノロジーズでは、今後も引き続き自社ソリューションの提供を推進してまいります。

一方、業界全体の課題でもありますが、優秀なエンジニアの獲得競争は激しさを増しております。CAICAテクノロジーズにおいても、人材獲得手法や採用体系の多角化に努め、一般とスペシャリストの処遇体系を整備するとともに、パートナー企業との連携にも注力しております。

これらの結果、ITサービス事業の売上高は、1,268百万円（前年同四半期比9.7%増）、営業利益は41百万円（前年同四半期比58.9%減）となりました。

## 2) 金融サービス事業

当社におきましては、当第1四半期連結累計期間は、特筆すべき暗号資産の投融資・運用は行っておりません。当社発行の暗号資産であるカイカコインにつきましては、先般立ち上げを発表したCAICA Verseにて、カイカコインを活用してブロックチェーンゲームを楽しめる予定であり、カイカコインホルダーがブロックチェーンゲームに参加することで新規ユーザーが増加すること見込んでおります。また、Zaifにてカイカコインを売却することによりシームレスな現金化が可能となる予定です。CAICA Verseは、ゲーム運営企業にとって、独自のトークンを発行することなく、ブロックチェーンゲームを運営することができる革新的なビジネスモデルです。是非、この新しいVerseにご期待ください。

株式会社カイカフィナンシャルホールディングス（以下、「カイカフィナンシャルホールディングス」）が運営するZaif INOローンチパッド（一次販売）の売上高は、NFTの販売高に応じた販売手数料を収益源としております。当第1四半期連結会計期間にスタートした事業でありますため、連結業績の寄与にはしばらく時間を要しますが、Web3事業としては、第一弾である「NFT事業」に続き、Web3インフラサービス、ステーキングサービスの「Web3 BaaS事業」、ウォレット提供、投げ銭提供の「決済代行事業」、Web3コミュニティ支援の「Web3事業支援」を推進いたします。

カイカ証券におきましては、これまで独自のワラント商品に加え、暗号資産関連商品の取り扱いを拡充してまいりましたが、海外の大手暗号資産交換所の経営破綻などを発端とする暗号資産相場の乱調をはじめ、デリバティブ派生商品に対する投資家の意欲の衰退などからカイカ証券の提供する商品の拡充ができなかったうえ、取引量も伸び悩んでおります。こうした外部環境やカバードワラント事業の高コスト体質を考慮した結果、業態転換を図るべく、現在、既存商品の早期終了を進めております。

カイカエクスチェンジの売上高は主に暗号資産交換所「Zaif」における受入手数料や暗号資産売上の損益で構成されております。当第1四半期連結累計期間においては、暗号資産価格の下落に伴う暗号資産売買損益の悪化や、暗号資産の市況悪化の影響を受け、暗号資産評価損を計上いたしました。カイカエクスチェンジでは現在、暗号資産市場の影響を受けにくいストック型収益の比率を上げることで安定基盤の構築を図っております。具体的には既にサービスを開始している「Zaifコイン積立」、「自動売買おてがるトレード」、「暗号資産FX」、暗号資産の大口取引需要に対応するための専用窓口「クリプトOTCデスク」等に加えて商品ラインナップのさらなる拡充を図ってまいります。また、当第1四半期連結会計期間は、Orderbook tradingのサービスページをリニューアルし、ユーザーの利便性向上に努めました。加えて、2023年1月に、暗号資産トロン（TRX）の取り扱いを開始しております。今後は、GameFi領域に特化したものなど、取り扱う暗号資産を厳選し、他社との差別化を図ってまいります。

カイカキャピタルにおきましては、レンディングサービスを活発化させており、現在、ビットコイン（BTC）、シンボル（XYM）、カイカコイン（CICC）の募集を定期的に行っております。暗号資産の投融資・運用につきましては、暗号資産の価格の推移を見極め、慎重にトレーディングを行ってまいりましたが、当第1四半期連結累計期間においては、暗号資産価格の下落に伴う暗号資産売買損益の悪化や、暗号資産の市況悪化の影響を受け、暗号資産評価損を計上しております。

これらの結果、金融サービス事業の売上高は△82百万円（前年同四半期は596百万円）、営業損失は671百万円（前年同四半期は営業損失32百万円）となりました。

## 3) その他

その他につきましては、暗号資産コンテンツも提供を行うメディア事業で構成されており、売上高は2百万円、営業利益は2百万円となりました。なお、メディア事業は前第3四半期連結会計期間からの事業の開始であることから前年同四半期比の記載はございません。

## (2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は47,224百万円（前連結会計年度比20.0%減）となりました。これは主に利用者暗号資産が9,178百万円減少したことなどによるものであります。

当第1四半期連結会計期間末における負債は42,716百万円（前連結会計年度比20.7%減）となりました。これは主に預り暗号資産が9,178百万円減少したことなどによるものであります。

当第1四半期連結会計期間末における純資産は4,508百万円（前連結会計年度比12.5%減）となりました。これは主に当第1四半期連結会計期間における親会社株主に帰属する四半期純損失により利益剰余金が減少したこと、行使価額修正条項付株式会社CAICA DIGITAL第3回新株予約権の一部権利行使により資本金及び資本剰余金がそれぞれ60百万円増加したことなどによるものであります。

以上のとおり、当第1四半期連結会計期間末においては、自己資本比率が9.0%（前連結会計年度末は8.3%）となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループは「ITサービス事業」と「金融サービス事業」を展開しております。その内「金融サービス事業」は、経済情勢や暗号資産市場等の環境の影響を受けることから、業績予想を行うことが困難であるため、連結業績予想を非開示とさせていただきます。

ITサービス事業においては、大手SIer等の既存顧客からの受注の拡大に加え、一次請けの比率を向上することで、より一段高い収益貢献を目指してまいります。

金融サービス事業においては、ブロックチェーンや暗号資産交換所「Zaif」運営の知見を活かし、今後拡大が見込まれるWeb3事業での成長を図っております。また、これまで業績面、キャッシュ・フロー面で大幅なマイナスの影響をもたらしていた金融サービス事業の在り方を見直し、カイカ証券において業態転換を図るべく、現在、既存商品の早期終了を進めております。暗号資産交換所Zaifを運営するカイカエクスチェンジでは、暗号資産市場の影響を受けづらいストック型サービスのラインナップの拡充を図ってまいります。また、GameFi領域に特化したものなど、取り扱う暗号資産を厳選し、他社との差別化を図ってまいります。カイカキャピタルでは、レンディングサービスの拡大と自己資金による暗号資産投資を拡大してまいります。

また、当第1四半期連結会計期間より、Web3事業を開始いたしました。Web3事業の第1弾として、カイカフィナンシャルホールディングスにおいて、ブロックチェーンゲーム専門NFTローンチパッド（1次販売）「Zaif INO」のサービスを開始しております。カイカフィナンシャルホールディングスは、「Zaif INO」の運営会社という位置付けであり、NFTの販売高に応じた販売手数料が収益源となります。今後も有力なタイトルのNFTを継続的に取り扱っていく予定であり、国内外のブロックチェーンゲーム・GameFi企業との連携を更に拡大させていく方針です。加えて、当社グループは、子会社に暗号資産交換所Zaifを運営するカイカエクスチェンジを擁しており、「Zaif INO」の利用者によるZaifでの暗号資産の取引活性化、Zaif決済サービスのZaif INO参加企業への提供、ユーティリティ性の高いトークンの取り扱いなど、Zaif経済圏の活性化も進めてまいります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年10月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年1月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,671,569	2,120,807
預託金	9,133,000	7,411,000
売掛金	830,966	803,486
商品	4,781	2,391
仕掛品	2,496	32,271
自己保有暗号資産	1,590,758	1,394,037
利用者暗号資産	43,196,636	34,017,960
短期貸付金	20,000	20,000
未収入金	171,751	229,113
預け金	414,242	292,433
その他	186,924	148,282
流動資産合計	58,223,128	46,471,783
固定資産		
有形固定資産	55,090	54,286
無形固定資産		
ソフトウェア	1,224	15,585
その他	11,241	10,784
無形固定資産合計	12,466	26,370
投資その他の資産		
投資有価証券	525,219	456,802
出資金	60,826	60,079
長期貸付金	285,503	284,103
その他	91,847	91,110
貸倒引当金	△221,285	△219,885
投資その他の資産合計	742,111	672,210
固定資産合計	809,669	752,867
資産合計	59,032,797	47,224,651

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年10月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年1月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	265,464	244,278
1年内返済予定の長期借入金	180,000	270,000
1年内償還予定の社債	140,000	140,000
未払金	267,946	195,997
預り金	8,855,948	7,298,434
預り暗号資産	43,196,636	34,017,960
借入暗号資産	242,387	131,457
未払法人税等	46,120	6,679
未払消費税等	46,661	64,033
賞与引当金	151,520	76,326
その他	221,643	207,081
流動負債合計	53,614,330	42,652,249
固定負債		
社債	70,000	50,000
長期借入金	180,000	-
繰延税金負債	474	201
その他	15,193	13,795
固定負債合計	265,667	63,997
特別法上の準備金		
金融商品取引責任準備金	8	8
特別法上の準備金合計	8	8
負債合計	53,880,006	42,716,254
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	50,000	110,666
資本剰余金	12,145,310	12,210,309
利益剰余金	△7,243,833	△7,987,647
自己株式	△103,867	△104,389
株主資本合計	4,847,609	4,228,938
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△63,199	△62,342
為替換算調整勘定	102,665	101,699
その他の包括利益累計額合計	39,465	39,357
新株予約権	3,731	4,923
非支配株主持分	261,984	235,178
純資産合計	5,152,790	4,508,397
負債純資産合計	59,032,797	47,224,651



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2021年11月1日 至2022年1月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2022年11月1日 至2023年1月31日)
売上高	1,751,979	1,187,096
売上原価	995,776	1,162,360
売上総利益	756,202	24,736
販売費及び一般管理費	786,820	753,545
営業損失(△)	△30,617	△728,809
営業外収益		
受取利息	9	909
投資有価証券売却益	-	0
投資事業組合運用益	-	1,590
賞与引当金戻入額	3,834	1,129
その他	425	1,489
営業外収益合計	4,270	5,118
営業外費用		
支払利息	1,540	1,002
支払手数料	3,647	294
株式交付費	3,376	-
有価証券売却損	-	15,862
その他	5,027	799
営業外費用合計	13,592	17,959
経常損失(△)	△39,939	△741,650
特別利益		
貸倒引当金戻入額	3,700	1,400
負ののれん発生益	637	-
受取和解金	550,837	-
特別利益合計	555,174	1,400
特別損失		
投資有価証券評価損	-	23,896
特別損失合計	-	23,896
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	515,234	△764,146
法人税、住民税及び事業税	33,764	2,141
法人税等合計	33,764	2,141
四半期純利益又は四半期純損失(△)	481,469	△766,287
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	116,407	△22,473
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	365,062	△743,814

## 四半期連結包括利益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年11月1日 至 2022年1月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年11月1日 至 2023年1月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	481,469	△766,287
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△22,044	857
為替換算調整勘定	76	△965
その他の包括利益合計	△21,967	△108
四半期包括利益	459,502	△766,396
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	343,094	△743,923
非支配株主に係る四半期包括利益	116,407	△22,473

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

行使価額修正条項付株式会社CAICA DIGITAL第3回新株予約権の一部権利行使により、資本金及び資本剰余金がそれぞれ60,666千円増加しております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2021年11月1日 至 2022年1月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ITサービス 事業	金融サービス 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,155,158	596,821	1,751,979	—	1,751,979
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,169	—	1,169	△1,169	—
計	1,156,328	596,821	1,753,149	△1,169	1,751,979
セグメント利益又は 損失(△)	101,333	△32,218	69,114	△99,732	△30,617

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去の2,068千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△101,801千円が含まれております。全社費用の主なものは、当社(持株会社)運用に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## II 当第1四半期連結累計期間(自 2022年11月1日 至 2023年1月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計
	ITサービス 事業	金融サービス 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,267,037	△82,879	1,184,158	2,937	1,187,096
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,360	-	1,360	-	1,360
計	1,268,397	△82,879	1,185,518	2,937	1,188,456
セグメント利益又は 損失(△)	41,644	△671,708	△630,063	2,937	△627,126

	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
売上高		
外部顧客への売上高	-	1,187,096
セグメント間の内部 売上高又は振替高	△1,360	-
計	△1,360	1,187,096
セグメント利益又は 損失(△)	△101,683	△728,809

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、メディア事業を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去の990千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△102,673千円が含まれております。全社費用の主なものは、当社(持株会社)運用に係る費用であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前第3四半期連結会計期間より、新規でメディア事業を開始しており、当該事業の開始により、報告セグメントには含まれない「その他」を追加しております。